

NTTの自動運転実証ホームフィールド“Co-Creation Hub”稼働！

-運行や路車協調、E2E、マップレス等の新技術を公道環境で通年実証-

[NTTモビリティ株式会社](#)（以下「NTTモビリティ」）は自動運転実証フィールド“Co-Creation Hub”を2026年6月1日より稼働させ、今期実証スケジュールを公開します。場所は[NTT武蔵野研究開発センター](#)周辺の公道を含むエリアとなります。

本フィールドは、自動車・歩行者・自転車の多い公道環境等における自動運転技術や運行の実証をNTTグループが通年で実施することを目的としています。また交通事業者・自治体・サービス事業者等の多様なパートナーとの連携実証も実施します。本フィールドの活用により、自動運転サービスの社会実装加速に向け、地域交通課題の解決に直結する共創型の取組みを推進します。

1. 開設背景・目的

自動運転技術の進展・社会実装の動きがグローバルで加速しています。とりわけ日本においてはドライバー不足・高齢化等の課題が先行しており、自動運転サービスへの期待は拡大の一途です。NTTモビリティは、自動運転サービスの社会実装加速に必要な以下3点を目的とし、本実証フィールドを開設・稼働開始いたします。

- A) 自動運転運行の安全性確保・向上
- B) 自動運転車両の遠隔監視・管制の確立・効率化
- C) 自治体・交通事業者が導入・継続できる自動運転サービスモデルの構築

<運行予定車両（一例）>



トヨタ自動車株式会社のモビリティサービス専用バッテリーEV「e-Palette」をベースとして改造した車両



トヨタ自動車株式会社のミニバン「シエナ」をベースとして改造した車両

2. 実証内容

- ・多彩な公道ルートにおける運行実証
 繁華街・住宅街等を含む複数ルートの走行品質・安全性向上実証を通年実施
- ・多様な車両モデル・ADK 技術の運行実証・L4 認定取得
 e-Palette（バス型）、シエナ（乗用車）など複数タイプを運行
- ・遠隔監視・管制の高度化・効率化に向けた実証
 複数車種・複数ルート・複数車両の同時監視・管制の実証に加え、
 そのために必要な高信頼通信の実現に向けた検証実施
- ・スマートポールの実装と車両との協調実証
 路側センサーや予測機能・安定通信により死角リスク低減や異常検知を高度化、
 及び車両側センサー機能の軽減検証

3. 今年度の実証スケジュール（予定）



以上

【NTT モビリティについて】

NTT グループはこれまで、地域の交通課題解決に向けて、全国に広がる NTT グループの運用体制を活かし多くの自動運転関連実証に参画してきました。また May Mobility 社や Navya 社への出資等を通じた自動運転車両の提供や、IOWN 構想をはじめとする通信技術の高度化等により、自動運転の安全性・信頼性向上・普及促進に取り組んできました。

2025 年 12 月に設立した NTT モビリティは、NTT グループ全体の全国カバレッジ・技術・知見を収斂し、自動運転の車両調達、導入から運用までを一体的に支援することで、自動運転の社会実装を加速していきます。

(本発表並びに本フィールドでの実証に係る問合せ先)

NTT モビリティ株式会社 コーポレート部

contact@ntt-mobility.com